

# 裸体像はよくない像



## きっかけ

それは学校帰り橋にさしかかった時のこと...橋の真ん中には裸像が一体、その横を小学生が通り過ぎていく。そして、ふと疑問が沸き起こった。

- ・なぜこんな所に裸のお姉さんが...
- ・なぜ誰もこの像を気にもとめないのか。

こんな、すぐ忘れそうな疑問に私達はこだわった。大きく取り上げる必要があると感じたからだ。



### 問題1 裸のお姉さん

どうして女性の裸体像が外に立っているのだろうか。そんな、ふとした疑問は大きな問題へつながっていく。裸体像が、雨の日も雪の日も変わらずそこに立っていて良いものか。そもそも、裸体が公共の場に立っているのはなぜか。

### 問題2 見る側の意識

裸体像の横を皆、無関心に通り過ぎていく。道路わきにあっては、ゆっくり鑑賞できないかもしれない。しかし、「なぜ裸体がこんな所に...」という疑問を抱いて良いはずである。それなのに多くの人々は「どうでもよい」という態度をとっている。この見る側の意識も変える必要がある。



# 調査・分析 裸のお姉さんについて



## 1 美術館と公共の場

日常生活の場からは切り離された「美術館」つまり、純粋に芸術を味わう場所では、裸体からは何の問題も生まれてこない。しかし、公共の場に持ってくる場合、見る側の気持ちを考えたものにする必要がある。

## 2 彫刻、パブリックアートの歴史

なぜ美術館に置かれて鑑賞すべきものが公共の場に出てきたか。一つは、戦後のパブリックアートが「平和」「自由」などのスローガンを、健康な裸体で表現しようとしてきたことが挙げられる。たしかに、戦後の希望として「平和」や「自由」といったものを題材としたのはわかるが、それがなぜ裸体と結びついたのかは、明確に説明されていない。それなのに、今でも裸像が当たり前であるかのように置かれている。そして、「裸体は芸術だからどこにあっても良いのだ」というイメージまで植え付けられたようだ。このことを放っておいて良いはずがない。

## 3 小学校

設置場所というのにも注意が必要だ。現実には小学校の前に裸像が存在したりする。

## 4 雪

特に裸像が冬の吹雪にさらされていたら、美しさより哀れさを感じるだろう。パブリックアートであるからには、もっと見る側の気持ちを考えてよね。



# 問題解決のための提案

1



## 提案1 住民アンケート

見る側の権利と意見の尊重のため、地域住民にパブリックアート設置前にアンケートを採ろう。



## 提案3 美術館に帰りなさい

裸の人間が外を歩かないのに裸体像が外にあるのは非常に不自然だ。ヌードは芸術の大事な要素だが、それを公共の場に持ち出してはいけない。



## 提案5 噂を流しましょ

せっかくの裸体像。無駄にするのもったいない。例えば「像に触れると安産する」という噂を流そう。



## 提案2 動物像はいかが？

例えば「ペンギンの像」を設置した場合、雪中でも違和感がなく、夏には涼しさを感じさせるものとなるだろう。



## 提案4 服を着ましょね

問題は「裸」であること。服を着せてみよう。衣装の公募や批評をして観しむのもよいかもね。そうすることで像を、より身近に感じられる。



## 調査・分析 見る側の意識について



### 1 裸体はどこに置いても芸術だと思っている人々

エロチシズムは芸術の大事な要素で、歴史的にも女性像が多く造られてきた事は確かだ。しかし、公共の場に進出してきたことに対しては、疑問を抱く必要があるのではないか。

### 2 関心を示さない人々

裸体像についてアンケートしたところ「どうでも良い」という意見が意外に多かった。現代人は物質的豊かさに満足せず、精神面の充足をもっと考えなくてはいけない。

## 問題解決のための提案 2

裸体を平気で見ていることを人々に考え直して欲しい。そこでブロンズ色の像を生身の人間の色に変えたらどうだろう。

